



# CLI ベースのセットアッププログラムによるスイッチの設定

この付録では、Catalyst 3650 スタンドアロン スイッチまたはスイッチ スタックを CLI ベースでセットアップする手順について説明します。Express Setup を使用してスイッチを設定するには、『Catalyst 3650 スイッチ スタートアップ ガイド』を参照してください。スイッチを電源に接続する前に、安全に関する注意事項を十分に確認してください。

この章では、次の事項について説明します。

- [CLI のアクセス \(3-1 ページ\)](#)
- [初期設定情報の入力 \(3-5 ページ\)](#)

## CLI のアクセス

次に、CLI にアクセスできるさまざまな方法を示します。

### Express Setup 経由での CLI のアクセス

設定が行われていないスイッチで CLI にアクセスするには、スイッチを Express Setup モードにして、スイッチのイーサネット ポートまたはイーサネット管理ポートを PC またはワークステーションのイーサネット ポートに接続します。スイッチを Express Setup モードにするには、『Catalyst 3650 Switch Getting Started Guide』([http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/lan/catalyst3650/hardware/quick/guide/cat3650\\_gsg.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/lan/catalyst3650/hardware/quick/guide/cat3650_gsg.html))に記載されている手順に従います。

スイッチが Express Setup モードの状態、IP アドレス 10.0.0.1 を入力して Telnet セッションを開始します。**setup** ユーザ EXEC コマンドを入力します。「[初期設定情報の入力](#)」セクション (3-5 ページ) に記載されている情報を入力します。

スイッチの設定情報を入力した後、**write memory** 特権 EXEC コマンドを使用して、フラッシュメモリに設定を保存します。



(注) Express Setup モードでは、**write memory** コマンドを入力するまで、スイッチ上で IP アドレス 10.0.0.1 が有効です。ただし、**write memory** コマンドを入力すると、Telnet 接続が切断されます。

CLI の使用方法の詳細については、『Cisco Catalyst 3650 Series Switches Command Reference Guides』  
(<http://www.cisco.com/c/en/us/support/switches/catalyst-3650-series-switches/products-command-reference-list.html>)を参照してください。

## コンソールポート経由での CLI のアクセス

Cisco IOS コマンドおよびパラメータは CLI によって入力できます。



(注) Catalyst 3650 スイッチをスタック構成にしている場合、そのいずれかのスタック スイッチの 10/100/1000 イーサネット管理ポートまたはコンソール ポートに接続します。スタック全体の初期設定は、スタック内のどのスイッチでも実行できます。

次のオプションノイズ化を使用して CLI にアクセスします。

- RJ-45 コンソール ポート
- USB コンソール ポート

### RJ-45 コンソール ポート

RJ-45 コンソール ポートは、スイッチの背面パネルにあります。

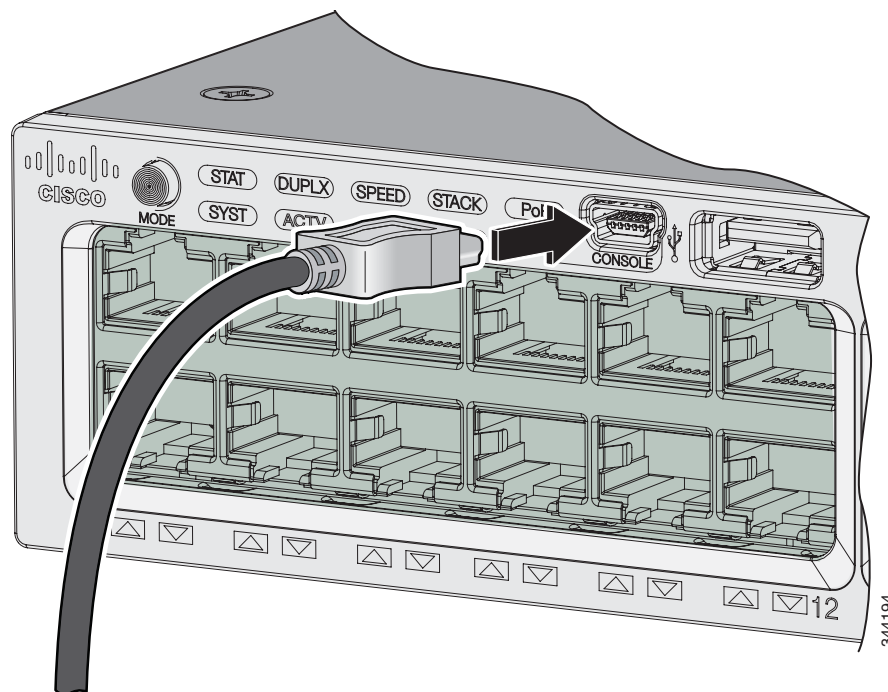
- 手順 1 RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを PC の 9 ピン シリアル ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのコンソール ポートに接続します。
- 手順 2 PC または端末で、端末エミュレーション プログラムを起動します。プログラム (通常、HyperTerminal または Procomm Plus などの PC アプリケーション) によって、スイッチと PC または端末との通信が可能になります。
- 手順 3 PC または端末のボー レートおよびキャラクタ フォーマットを、次に示すコンソール ポートの特性に合わせて設定します。
  - 9600 ボー
  - 8 データ ビット
  - 1 ストップ ビット
  - パリティなし
  - なし(フロー制御)
- 手順 4 スイッチに電源を接続します。
- 手順 5 PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。「[セットアッププログラムの設定](#)」セクション(3-6 ページ)の手順を実行します。

## USB コンソール ポート

USB ミニタイプ B ポートは、スイッチの前面パネルにあります。

- 手順 1 スイッチの USB コンソール ポート(図 3-1 を参照)を、Windows ベースの PC に最初に接続するときは、USB ドライバをインストールします。インストール手順については、以下のセクションを参照してください。
- 「Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール」セクション(3-4 ページ)
  - 「Microsoft Windows 用 Cisco USB ドライバのアンインストール」セクション(3-4 ページ)

図3-1 USB コンソール ケーブルを Catalyst 3650 スイッチに接続



- 手順 2 USB ケーブルを PC の USB ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのミニ B (5 ピン コネクタ) USB コンソール ポートに接続します。図 3-1 を参照してください。
- 手順 3 PC または端末上で端末エミュレーション ソフトウェアを起動します。このプログラム(その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション)は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。
- 手順 4 コンソール ポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクタ フォーマットを次のように設定します。
- 9600 ボー
  - 8 データ ビット
  - 1 ストップ ビット
  - パリティなし
  - なし(フロー制御)

- 手順 5 スイッチに電源を接続します。
- 手順 6 PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。「[セットアッププログラムの設定](#)」セクション(3-6 ページ)の手順を実行します。

## Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール

Microsoft Windows ベースの PC をスイッチの USB コンソール ポートに最初に接続するときに、USB デバイス ドライバをインストールする必要があります。

Microsoft Windows USB デバイス ドライバをインストールするには、次を行います。

- 手順 1 Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバ ファイルを入手し、解凍します。
- 手順 2 USB ケーブルを PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、Found New Hardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

## Microsoft Windows 用 Cisco USB ドライバのアンインストール

Windows の Add or Remove Programs ユーティリティ、または setup.exe ファイルを使用します。

- [Add or Remove Programs Utility](#) を使用した [Microsoft Windows 用 Cisco USB ドライバのアンインストール](#)
- [Setup.exe](#) プログラムを使用した [Microsoft Windows 用 Cisco USB ドライバのアンインストール](#)

## Add or Remove Programs Utility を使用した Microsoft Windows 用 Cisco USB ドライバのアンインストール

- [Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのアンインストール](#)
- [Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのアンインストール](#)

### Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのアンインストール



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- 手順 1 [Start] > [Control Panel] > [Add or Remove Programs] を選択します。
- 手順 2 [Cisco Virtual Com] を選択し、[Remove] をクリックします。
- 手順 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

## Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのアンインストール



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- 手順 1 [Start] > [Control Panel] > [Uninstall or change a program] の順に選択します。
- 手順 2 [Cisco Virtual Com] を選択し、[Uninstall] をクリックします。
- 手順 3 [Programs and Features] ウィンドウが表示されたら、[Yes] をクリックします。

## Setup.exe プログラムを使用した Microsoft Windows 用 Cisco USB ドライバのアンインストール



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- 手順 1 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行し、[Next] をクリックします。
- 手順 2 Cisco Virtual Com の **InstallShield** ウィザードが表示されたら、[Next] をクリックします。
- 手順 3 表示される [Program Maintenance] ウィンドウで、[Remove] オプション ボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
- 手順 4 表示される [Remove the Program] ウィンドウで、[Remove] をクリックします。



(注) Windows Vista または Windows 7 の [User Account Control] の警告が表示されたら、[Allow - I trust this program] をクリックして進みます。

- 手順 5 表示される [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウで、[Finish] をクリックします。

## 初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアッププログラムを完了します。セットアッププログラムはスイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカル ルータやインターネットと通信するのに必要な IP アドレスやその他の設定情報を割り当てる必要があります。これらの情報は、スイッチの設定や管理にデバイス マネージャまたは Cisco Network Assistant を使用する場合にも必要です。

## IP 設定

スイッチを設定するにはネットワーク管理者からの次の情報が必要です。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

## セットアッププログラムの設定

スイッチをスタックしていて、スタック内の各スイッチに複数のコンソールが接続してある場合は、最初に Enter を押したコンソールに初期設定ダイアログが表示されます。

セットアッププログラム、およびスイッチの初期設定を完了するには、次の手順を実行します。

**手順 1** 次の 2 つのプロンプトで **Yes** を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity
for management of the system, extended setup will ask you
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

**手順 2** スwitchのホスト名を入力し、**Return** を押します。

ホスト名は、コマンド スwitch では 28 文字以内、メンバ スwitch では 31 文字以内に制限されています。どの スwitch でも、ホスト名の最終文字として `-n` (`n` は数字) を使用しないでください。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

**手順 3** シークレット パスワードを入力し、**Return** を押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。シークレット パスワードは暗号化され、イネーブル パスワードはプレーン テキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

**手順 4** イネーブル パスワードを入力し、**Return** を押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

**手順 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** を押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

手順 6 国コードを設定する場合は、**yes** を入力し、**Return** キーを押します。

```
Do you want to configure country code? [no]: yes
```

手順 7 国コードを入力し、**Return** キーを押します。

```
Enter the country code[US]:US
```

手順 8 (任意)プロンプトに従って、簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)を設定します。後から、CLI、Device Manager、または Cisco Network Assistant アプリケーションを使用して SNMP を設定することもできます。SNMP を後で設定する場合は、**no** を入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

手順 9 管理ネットワークに接続するインターフェイスのインターフェイス名(物理的なインターフェイスまたは VLAN(仮想 LAN)の名前)を入力して、**Return** を押します。

```
Enter interface name used to connect to the
management network from the above interface summary: vlan1
```

手順 10 インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネットマスクを入力し、**Return** を押します。(ここに示す IP アドレスとサブネットマスクは一例です)

```
Configuring interface vlan1:
Configure IP on this interface? [yes]: yes
IP address for this interface: 10.4.120.106
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

スイッチの初期設定が完了しました。スイッチにその設定が表示されます。設定出力例を次に示します。

```
The following configuration command script was created:
hostname Switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEbl90WcBPD9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
!
interface GigabitEthernet4/0/1
!
interface GigabitEthernet4/0/2

interface GigabitEthernet4/0/3
!
...(出力省略)
!

!
end
```

手順 11 スwitchの初期設定が完了すると、次の選択肢が表示されます。

```
[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.
```

```
[1] Return back to the setup without saving this config.
```

```
[2] Save this configuration to nvram and exit.
```

```
If you want to save the configuration and use it the next time the switch reboots, select option 2 to save it in nonvolatile RAM (NVRAM).
```

```
Enter your selection [2]:2
```

手順 12 いずれかを選択して **Return** を押します。

---

セットアッププログラムが完了すると、スイッチは作成されたデフォルト設定を実行できます。この設定の変更や他の管理タスクを実行するには、Switch> プロンプトでコマンドを入力するか、Cisco Network Assistant などの管理ツールを使用して設定を続行します。